

### 県議会議員 2 期目を迎えて

おかげさまで皆様のご支援をいただき、2 期目の県議会議員活動も 1 年が過ぎました。

昨年は、文教警察委員会の筆頭副委員長として委員会運営の勉強と会派では政務調査副会として条例案の作成、県内 35 市町の地域要望の聞き取り作業、28 年度予算折衝に参加し、県の予算関係に積極的に参加することが出来ました。 県議としては 3 年が経ちますが、よ静岡県議会でやっていける自信がついた、内容の深い 1 年間でありました。

さて、28 年度は自分の興味がある医療や福祉、介護、子育て支援などの勉強を積み重ねていと思ひます。 また、地域の課題克服はもとより、人口減少時代に果敢に挑戦し、雇用や安定住者の拡大についても取り組んでいきたいと考えます。

まだまだ議員としては半人前のところがございますが、皆様にご指導を賜り、柔軟な発想と持って静岡県のために活動してまいります。

今後とも、私「さち茂人」にご支援と厳しいご意見を賜ることを深くお願い申し上げ、28 挨拶とさせていただきます。 今年度も頑張ります!!

佐地 茂人



### 平成 28 年 2 月県議会定例会にて一般質問を行いました!!

昨年 6 月県議会定例会での一般質問に続いて、今年度は議場にて 2 回目の質問をさせていただくことが出来ました。

今回の質問では・・・

1. 子育てにやさしい静岡県づくりと結婚支援について質問しました。

子育て環境を応援する気運の醸成を目的とした「しずおか子育て優待カード」を 4 月から全国展開し、他県での利用を可能とし、子育てを応援する輪を広げていくこと。また、結婚支援については 28 年度から東部地域での「ふじのくにマリッジサポートセンター」を全県（中部・西部にも）に拡大し、地域における結婚支援の体制を強化充実していく。との知事からの答弁を頂きました。

2. ふじのくに地球環境史ミュージアムの開館について質問しました。

28 年度の企画展(12 月頃～)では、国内外や県内に生息するチョウの標本を活用し、チョウと自然環境に関する展示を行うこと。対話や交流を重視したガイドツアーでは博物館の裏舞台を紹介すること。など魅力を高めていく旨の知事答弁がありました。また、利用者の 9 割は自家用車で来場するため、200 台の駐車場を完備することやバス事業者にはバス路線の一部区間を運行委託し、路線バスを静岡駅からミュージアムに直接乗り入れる路線を運行すること等の答弁がありました。私からはバス路線の利用者数や地域コミュニティバスとのすみ分けについて再質問し、開館年度は年間 14 万 6 千人の来館者を見込んでおり、そのうち 1 割の 1 万 4,600 人がバスを利用すると見込んでいること、コミュニティバスは東静岡を拠点とし、路線バスは静岡駅からミュージアムで運行状況が異なる旨の答弁がありました。

3. 地震・津波対策について質問しました。

津波対策ハード整備として事業費約 2200 億円により、これまでの 3 年間で、総事業費の約 13%にあたる 280 億円を投入し、52 か所で調査・設計等を進め、来年度末には 6 か所で整備完了する予定であること。また、レベル 1 津波に対応した施設をすべて整備するためには平成 34 年度以降（アクションプログラム 2013 終了後）さらに同程度の事業費（2200 億円）が必要であることが分かりました。また、27 年度中に静岡海岸全体の 8.6 km のうち安倍川河口の中島地区で 8.5m の防潮堤の嵩上げを 70m 整備し、さらに 28 年度は東側の中島浄化センターの南側区間 330m の整備を行っていく旨の答弁をひき出しました。  
\*6 月に国から 330m 要望について 280m で内示が確定しました。

4. その他の質問では

- ・津波災害特別警戒区域(オレンジゾーン)の指定について
- ・攻めの農林水産業への転換 地域農業の将来と 6 次産業化の推進
- ・教育行政について 中学校から高校への進路指導と県立高校の大学受験への取り組み
- ・警察における渋滞対策について

など質問を行いました。



### さち茂人県政報告会を開催しました!!

衆議院議員大塚拓先生をお招きして「平和安全法制と我が国周辺の危機管理」についてご講演をいただき、私、さち茂人からは（少し長かったのですが…）県政報告をさせていただきました。

県の主要事業について、主に静岡市内の事業について

『日本平山頂展望台整備について』、『東静岡地区における県有地の活用「文化力の拠点」について』、『静岡海岸津波防潮堤整備の進捗について』、『28 年度生活環境整備事業費の県単独事業費 271 億円の予算要望について』等、現在の県の動きについて話をさせていただきました。

今年度も引き続き、県勢発展のため活動してまいりますので、今後ともご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。

# 静岡県の就労状況と雇用対策について

県議会議員二期目の選挙が終わって、もう一年が経ちます。早いもので、もう「時が過ぎるのは早い」と感じる年齢に達し始めてきたことだ。ところで、昨年の静岡県人口流出ワースト記録は確か、一昨年の全国2位から全国5位になったんだったか？

Q そうそう、人口流出は若者で特に二十代の女性が多いってことなんだけど、女性は事務職を好む傾向があるようなね。それで、静岡は定員が少ないから、大都会に行ってしまうとか、また、女性に限らないけど、例えば静岡市民が新しい玩具を開発したり、海外の玩具を日本で売るとなると静岡よりも東京で拠点を構えたほうが人口や価値観の多様性から有利だよ。この前、海外商品を日本で販売すると日本の商品を海外でネットを通じて販売するから東京で会社を興すので東京に来ないか？という話をちょっと耳にしたよ。いろんな意味で、インターネットの情報社会に都居世界は大きく変わったね。東京のほうが新しい商売をするには、やっぱり良い世界は大きいからね。静岡の将来が心配だね。

A そうだね。静岡が好きで仕事をしたいと求めている若者は今のところ多いんだ。だから、やっぱり人口の社会的な減少を抑えていくためには、仕事の多い静岡県にいくことが求められるね。

Q 今の静岡県は仕事が多いのかい？どんな状況かな？

A うん、ちょっと昔にさかのぼるけど、リーマンショックって覚えているかい？サブプライムローンの破たんだね。

A Q そうそう、二〇〇八年（平成二十年）九月のことです。実質その翌年の平成十一年から雇用減少の問題が発生するんだ。リーマンショックにおける日本の影響はすさまじいものがあったよ。四兆円の収益減少でそのうち、ものつくりを売っている東海地方で一兆円のマイナスが生じたらしい。

A Q 厳しいね。その後どうなるんだい？

A Q 平成十二年八月に有効求人倍率は〇.三八に落ち込む、大学生の就職内定率は平成十二年三月から落ち込み、平成十二年三月の卒業生の時最悪で八六.九で美に百人のうち十三人が就職できない状況になった。その後、政府の対策によって緩やかに回復に向かう。平成二十六年三月には求人倍率が一.〇五まで回復し、今年二月三月には一.二七まで上がったんだ。大学生の就職内定率は今年の三月で九四.七%、短大生九六.五%、高校生が二六年末で九九.七%、今年（六月発表）も上がったかと思う。

A Q その間、県ではどんな対応を行ってきたんだい？

A Q 平成二十三年度から二十五年までにかけて緊急な対応として静岡県では「雇用創造アクションプラン」を策定し、推進してきた。結果、完全失業者は雇用悪化前の平成十九年の五万五千人と同水準までの改善が図られたんだ。例えば、平成二十五年三月から企業支援型という名目で国のお金（臨時特別交付金）を二六億円基金に積み立て、緊急雇用創出事業を行った。具体的には県と市が新規事業を展開するために雇用を拡大させたんだ。

A Q それで、雇用が増えただね。でも、それだと非常勤職員とか期間限定の雇用が多くなるね。

A Q そうなんだ。それで、平成二十六年三月からは新たな支援策に繋げていくんだ。なんだい？

A Q うん、県では平成二十六年三月から「ふじのくに」のブランドデザイン「後期アクションプラン」(県の総合計画実施プラン)の中で雇用対策を進めることになった。計画は二九年度までの四年間なんだ。

A Q その中でどうして来たんだい？

A Q 具体的な事業は数多くあるんだけど、大まかに話すと、さっき君が言ったように緊急雇用創出事業では期間限定の雇用にならざるを得ないよね。国では次の段階として、今働いている人のために、長く働き定着するための就業支援策として基金を追加したんだ。静岡県では安定した雇用にするための肌遇改善(たとえば賞与上げ)や、三六時間活用、地域人つくり事業(て)で行ってきた。

A Q それは雇用を生み出し、それから安定・継続と繋げた支援を行ってきたんだね。それで、これからはどうなるんだい？

A Q 県の「後期アクションプラン」に並行し、地方創生として、静岡県版「長期人口ビジョン」と「総合戦略」を昨年に策定したんだ。(この計画を作り、国の交付金を活用し、平成二十七年十月から総合戦力の交付金スタート)この中で雇用対策や就労支援を行っていくんだ。それで、今までは安定した雇用と賞金アップを進めてきて、若者については企業への売り手市場になってきた。ところが、優秀な人材ほど地域有力企業の内定を逃がって東京の大手企業に就職してしまう現状も出てきたんだ。つまり、東京一極集中化が進む進行することになるよね。

A Q さっきの話もそうだけど、いろんな仕事をすることなら東京のほうがやりやすいし、確かに頭のいい同級生はみんな大都会から帰ってこない！

A Q そう、これに歯止めをかけたのが二八年からは国の地方創生の中で「大都市圏から地方へ」というU・コトバ政策がキーワードになる。地方で人口の自然減に耐えながら、コトバト化等の工夫をして、知恵を絞らして地域の継続を考えたんだ。

A Q 都会から地方へ、地方の人材は地方で確保する政策に大転換するのが、地方創生って事かい？

A Q うん、そうだと思う。そして、雇用対策だけではなく、環境、医療、福祉、子育て支援、教育、TPP対策による第一次産業の新たな転換等に地方の知恵を絞らしていくことが重要なんだ。

A Q 雇用については県はどうしているんだい？

A Q うん、キーワードは人の支援から地元中小企業への支援だと思う。地域も企業も潜在能力の掘り起こしが求められる。さっきも言ったけど、これまで雇用の安定や賞金のアップを進めてきた。これからは地元企業の求めているサポートをして仕事を継続、拡大するための支援が重要だね。それが雇用につながる。

A Q そっちも大切だけど、人材確保はどうするんだい？

A Q まずは県内の静大、県大など地元大学生の流出を抑えるため、「U・ビズネス・フィールド」で活動する地元企業を有効活用し、地域のコミュニティと連携し、大学(〇〇センター・オポ・コミュニティ)で地域愛をくみながら将来と一緒に考えていけるようになることだと思う。

A Q 県外対策では、U・イターンに力を入れるべく、就職サポートセンターの最大限の活用、そして、他県の大学と就職支援協定を結び、大学内にあるキャリアセンターで優先的に静岡を宣伝してもらおう活動を行う。また、大学内ガイダンスに県内企業を参加させてもらう。

A Q 直接大学と交渉する時代なんだね。ところで、高校生とか中途採用など再就職支援や女性の活用なんかもあるけど…

A Q そうだね、それから六十歳から社会で貢献していただくために地域の新たな働き場所も重要だと思う。今日は学生以外の話は出来ないけど、当然、県もしっかりと取り組んでいくし、僕もチェックしていきます。

A Q 最後に言い残したことはないかい？

A Q 県の総合戦略では、昨年から二〇一九年までの五年間で八千人の雇用を拡大させていきたいと大きな目標を掲げている。でも、静岡県って市もそうだけど大学が非常に少ない事は掲げている原因だと思ってる。だから、選んでもらえる県になるように県外でも就職支援が県内の若者と同じように受けられることは重要だと思う。それから、地元の中小企業でも人材育成ができる環境を行政が支援すべきだと思う。今、大学に進学する子が多すぎて、高校生や専門生でも地元企業に就職して研修を受けるたり努力して大学出以上にやっばり認められる事例をたくさんサポートしたいね。

A Q 確かに大学出たから給料が高いとか就職が良いって時代ではないと思うね。誰もが頑張れば活躍できる「徳能活躍社会」になるっていいね。そうだね。現在、うちの家も子ども八人総活躍で土日忙しかつたらまらないよ。

A Q そりゃあ、自分の責任で頑張るしかないでしょ！

## 編集後記

今年もいつの間にか梅雨に入りました。ただ梅雨に入っても、梅雨らしくない天気が続いたり、異常気象で日本も季節感がなくなってきたなど、私は感じています。ただ梅雨が明けたら、夏ですが、今年の夏はラニーニャ現象が発生して日本は猛暑になるとか…私は寒いのは得意ですが、暑さには弱く、今年もエアコンから離れられない生活が続くそうです。さて、今年も昨年に引き続きビアパーティーを現在企画しております。詳細が決まりましたら、またご連絡させていただきますので、お問い合わせの上、是非ご参加ください。

平成 28 年 6 月 吉日 発行  
発行責任者 林 稔久  
編集担当 上條、小泉、島村、田中  
静岡市八幡 5 丁目 14-13  
TEL:054-287-0939  
FAX:054-286-4096

## 文教警察委員会で質問を行いました!!

教育委員会関係では、  
・県立高等学校の老朽化対策について質問し、県立高校 6 校で、改修工事の設計を進めており、入札が不調であった 1 校を除いては、28 年 3 月に完了する予定であり、28 年 9 月末には、すべての設計を完了する予定である。これら 6 校について、28 年度は、仮設校舎を建設し、改修工事を行う予定である。今後の取り組みについては、老朽化対策の対象となる、築 40 年を超える校舎が 214 棟あることから、早期の対応が必要となっている。対象棟すべての構造耐久性調査を実施しており、30 年間使用していく長寿命化改修と改築を比較し、コストメリットが少ない手法を採用していく。(静岡東高校も検討結果によっては、改築することが考えられる。)との答弁を頂きました。  
・特別支援学校でのインラインスケートの取り組みについて質問し、特別支援学校での学校の体育の授業においては、学校の状況や児童・生徒の実態、学習集団の編成等を踏まえ、学校が主体的に研究できるような種目を紹介していく。との答弁がありました。  
・その他、学力向上の観点から、静岡式 35 人学級編成とチーム・ティーチングについて  
・喫煙の課題としていじめ対策 ・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に関する方針  
・旧庵原高校を活用した埋蔵文化センターの移転整備などについて質問をしました。

公安委員会(警察)関係では、  
・バリアフリー化を含めた警察庁舎の整備について質問し、平成 10 年以降に建設された 9 警察署にはエレベーターが設置されている、28 年建設予定の松崎分庁舎は 2 階建てであるが、エレベーターが整備される。また、交番・駐在所については障がい者トイレを整備している。今後、建て替える場合に順次進める、との答弁があり、私からは静岡南警察署は 4 階建てであること、段差の大きい階段であり 4 階の会合場所に行くには高齢者はかなり酷であることをうったえ、バリアフリーへの取組や早期改修・建て替え等をお願いしました。  
・政令指定都市など都市部の犯罪抑止について質問し、警察からは地域ごとの犯罪情勢を個々に分析し、その地域に必要な犯罪抑止、検挙の各対策を効果的に進めている。例えば、静岡南警察署は自転車盗難が県下ワーストワンであり、生活安全課では実際の現場で鍵かけの仕方を教えて、テレビで報道して頂き、抑止対策に繋げている。との答弁がありました。  
・その他、次年度 20 数名の警察官増員に対し、組織の人員配置についての効果や工夫  
・新東名高速道路と中部横断自動車道の他県警との県境管轄について  
・山梨県警との合同による東海地震等災害訓練や富士山等における山岳訓練  
・静岡市警察部と浜松市警察部の事務事業について  
・28 年度新規事業について①道路交通法等改正対応事業費の内容について ②育児短時間勤務の女性警察官の任用について 質問をしました。